様式 C-19

科学研究費補助金研究成果報告書

平成 23 年　5 月　22 日現在

機関番号：１４４０１
研究種目：若手研究（B）
研究期間：2008～2010
課題番号：２０７２０２４４
研究課題名（和文）： 雲南・ビルマ間における中国ムスリムの越境移動と宗教実践の変容に関する人類学的研究
研究課題名（英文）:Anthropological Studies on Transnational Movements of Chinese Muslims between Yunnan and Myanmar and the Transformation of their Religious Practices.
研究代表者
木村　自（KIMURA MIZUKA）
大阪大学大学院人間科学研究科・助教
研究者番号：１０３９０７１７

研究成果の概要（和文）：本研究は、中国ムスリムの越境移住のプロセスを史料と聞き取り調査に基づき、マクロ・ミドル・ミクロの三つのレベルの相関関係を分析することで、彼らのアイデンティティと宗教実践の変容のメカニズムを明らかにするものであった。ただし、以上の三つのレベルの動態の相関関係は、さほど明らかにならなかった。というのも、中国 - ビルマ間（マクロレベル）の動態は、極めて個別・個人的なレベルにとどまっており、地域コミュニティの動向を左右するほどの性格を有していないからである。他方で、地域コミュニティの宗教実践の変容は、現地のインド系ムスリム、中東諸国へ留学した中国ムスリムたちが持ちかえった知識などによって変化してきている。

研究成果の概要（英文）：This project aimed to investigate the dynamics and the transformation of identity and religious practices of Chinese Muslim migrants by analyzing the correlation among macro, middle, and micro level aspects of their migration. However, the correlation among those three aspects was not clear. Part of the reason why it was not clear is the movements off Chinese Muslims between China and Myanmar were basically practiced on individual level. Thus transnational migration was an aspect of micro level while in actual it was conducted in micro levels. Rather the religious practices and identity were transformed in relation to the neighboring Indian Muslims or under the influence of those who studied in the Middle Eastern countries.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
２００８年度	800,000	240,000	1,040,000
２００９年度	1,000,000	300,000	1,300,000
２０１０年度	1,100,000	330,000	1,430,000
年度			
年度			
総　計	2,900,000	870,000	3,770,000

研究分野：人文学
科研費の分科・細目：文化人類学、文化人類学・民俗学
キーワード：移民、中国ムスリム、ミャンマー、中国雲南省

１．研究開始当初の背景

文化人類学における移民研究は、移住先社会に移民が同化適応することを前提とする研究から、移民が国境を越えて社会空間を構築しているとするトランスナショナリズム論へと大きくシフトしている。しかし、トランスナショナリズム論は、国境を越えて共有される社会空間に力点をおくあまり、ローカ

ルな日常実践における文化変容やアイデンティティの多様性については十分に議論してこなかった。

他方、雲南から東南アジア（タイおよびビルマ）への中国ムスリムの移住に関しては、これまでにも人類学的研究が複数報告されている。しかし、中国ムスリムの交易ルートの解明や移住経路の特定などの歴史学的テーマが中心となっており、移民中国ムスリムのローカルな宗教実践の変容や周辺諸民族との関係などについては、これまで十分に議論されてこなかった。

２．研究の目的

本研究は、中国雲南省とビルマの国境を越えて移住・移動する中国ムスリム（回族）を分析対象とし、彼らが親族的・商業的・宗教的ネットワークをとおして、国境を越えた中国ムスリムの社会空間を形成することにより、移住先・移住元コミュニティにおけるローカルな宗教実践を再編するメカニズムを解明することを目的としている。近年、ビルマと中国との間の政治的結びつきが増大するにしたがい、雲南とビルマ各都市との間において、中国ムスリムの親族的・商業的ネットワークが再構築されている。その結果、個別の地域におけるローカルな宗教実践に変化が生じている。本研究では、まず中国ムスリムが国境を越えて構築している親族的・商業的ネットワークと、国境を越えた人口流動の実態（マクロレベル）を把握する。次に、人口流動によって形成される国境を越えた社会空間が、ビルマと雲南のイスラーム宗教知識や宗教教育（ミドルレベル）に与える影響を分析する。さらに、呪術的治療行為や死者儀礼など、シンクレティックな宗教実践を事例として（ミクロレベル）、中国ムスリムのローカルな日常的宗教実践の変容と、トランスナショナルな社会空間の形成との相関関係を解明する。コミュニティ外部から流入するイスラーム宗教知識が、ローカルな宗教実践を改革の対象とすることが多いからである。

３．研究の方法

マクロレベルでの人口流動とトランスナショナルな活動の実態解明に加えて、雲南およびビルマの複数の地域における宗教実践の変容の動態調査を行う。こうした調査方法は、複数の場（multi-sited）における民族誌研究の流れをくむものであり、国境を越えた複数の地域にまたがる活動や情報の流通を調査する。そのための分析戦略として、トランスナショナルな社会空間とミクロなコミュニティの間に、イスラーム宗教知識の流動とイスラーム宗教教育の変容分析をミドルレベルとして設定する。そうすることで、トランスナショナルな社会空間の形成と、ローカルな宗教実践の変容との相互作用を、宗教知識人を媒介として接合させることができる。

４．研究成果

本研究は、中国ムスリムの越境移住のプロセスを史料と聞き取り調査に基づき、マクロ・ミドル・ミクロの三つのレベルの相関関係を分析することで、彼らのアイデンティティと宗教実践の変容を提示するものであった。ただし、以上の三つのレベルの動態の相関関係は、さほど明らかにならなかった。というのも、中国 - ビルマ間（マクロレベル）の動態は、極めて個別・個人的なレベルにとどまっており、地域コミュニティの動向を左右するほどの性格を有していないからである。他方で、地域コミュニティの宗教実践の変容は、現地のインド系ムスリム、中東諸国へ留学した中国ムスリムたちが持ちかえった知識などによって変化してきている。むしろ、本研究によって得た知見で重要なものは、次のとおりである。

（1）植民地期ビルマにおける中国ムスリム移民の戦略的行動と思考の把握：1886 年に上ビルマはイギリス植民地期統治下におかれたが、実際には藩王を中心とした間接統治が行われていた。藩王統治システムは、朝貢と保護の交換関係として単純化できる。中国ムスリムは、中国雲南省から上ビルマの村落に移住後、そうした藩王システムに自らを適応させた。他方で、中国ムスリムは彼らの居住する村落のイギリスへの帰属を盛んに主張するが、そうした主張もイギリスを藩王システムにおける藩王と理解したからである。

（2）ポスト植民地期ミャンマーにおける中国ムスリム移民の生存戦略：こうした帰属をめぐる戦略は、ポスト植民地期のミャンマーにおいても観察できる。ポスト植民地期ミャンマーで「外国人」とされてきた中国ムスリムたちは、ミャンマーにおける自らの地位を確保するために、植民地期の英国との関係を再提示し、中国との関係を相対化することで、軍事政権下における生存を図ろうとしている。

５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 6 件）

①<u>木村自</u>、「「境界」をめぐる中国ムスリムの動態――松本光太郎先生との調査旅行の備忘録」『コミュニケーション科学』第 33 号、（2011）、47-62、査読なし

②木村自、「旅緬雲南穆斯林在殖民/後殖民時期的歴史叙述與邊縁文化戦略」『第四届現代中国与東亜格局国際学術研討会：近代中国革命、社会転型与国際視野』、(2010)、122-131、査読なし

③木村自、「『夷地』像の相克—上ミャンマーにおける雲南ムスリム移民の憑依現象を事例として」『第 1 回　次世代国際学術フォーラム「境界面における文化の再生産」報告書』関西大学文化交渉学教育研究拠点、(2009)、73-87、査読なし

④木村自、「虐殺を逃れ、ミャンマーに生きる雲南ムスリムたち——「班弄人」の歴史と経験」『中国のイスラーム思想と文化（アジア遊学 129)』勉誠出版、(2009)、160-175、査読なし

⑤木村自、「台湾回民のエスニシティと宗教中華民国の主体から台湾の移民へ」『国立民族学博物館調査報告書 (SER)』83、(2009)、69-88、査読あり

⑥木村自、「中国雲南省における経堂教育魏山県永建鎮を中心に」関西大学文化交渉学教育研究拠点紀要『文化交渉学研究』第 2 号、(2009)、245-258、査読あり

〔学会発表〕(計 9 件)

①木村自、「植民地期およびポスト植民地時のミャンマーにおける中国ムスリムの生存戦略」『全球化時代の東・東南アジアにおけるエスニック・マイノリティと地域社会——連携と浸透』、2011.3.12、Fr. Harry Thiel Memorial Hall Chiangmai, Catholic Mission Center, 5/3, Soi 12 Charoen-Prathet Rd., A.Muang Chiang Mai, Thailand

②木村自、「旅緬雲南穆斯林在殖民/後殖民時期的歴史叙述與邊縁文化戦略」『第四届現代中国与东亚格局国际学术研讨会：近代中国革命、社会转型与国际视野』、2010.8.28、赣南师范学院国际学术交流中心

③木村自、「Social Memory as a Peripheral Strategy: Historical Narratives and Cultural Dimension of Chinese Muslim Migrants in Postcolonial Myanmar」2010 International Burma studies Conference. Université de Provence, 2010.7.7 、IRSEA-CNRS Marseille, France

④木村自、「主体化の複数性としてのディアスポラ——雲南ムスリム移民を事例として」東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所共同研究会「アジア・アフリカ地域におけるグローバル化の多元性に関する人類学的研究」、2010.1.10、東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所

⑤木村自、“Marginality as a Strategy on Myanmar-China Borderland: A Case Study of Yunnanese Muslim Migrants in Postcolonial Myanmar”、2009.8.8、At The International Convention of Asian Scholars 6, at Daejoen Convention Center, Daejoen, Korea.

⑥木村自、Social Memories of Migration as a Strategy for Identification: A Case Study of Yunnanese Muslim Migrants in Postcolonial Myanmar”、2009.7.3、At Society for East Asian Anthropology at Academia Sinica, Taipei, Taiwan

⑦木村自、「離散と集合の雲南ムスリム—ネーション・ハイブリディティ・地縁血縁としてのディアスポラ」若手研究者による共同研究『人の移動に注目した場所・空間・景観の文化人類学的研究』、2009.6.20、国立民族学博物館第 6 セミナー室

⑧木村自、Managing the Image of “Yi di (Barbarian Area)”: From the Case Study of Spirit Possession among Yunnanese Muslims Migrants in Burma、The 1st International Academic Forum for the Next Generation（Kansai University）” Cultural Reproduction on its Interface: From the Perspectives of Text, Diplomacy, Otherness, and Tea in East Asia”、2008.12.13、関西大学

⑨木村自、旅緬云南穆斯林移民的民間習俗初探、「海上交通与伊斯蘭文化」学術検研討会」、2008.11.26、於 海外交通史博物館（中国福建省）

〔図書〕(計 3 件)

①木村自、*Cultural Reproduction on its Interface: From the Perspectives of Text, Diplomacy, Otherness, and Tea in East Asia.* Vol. 1.、(2010)、103- 113、Institution for Cultural Interaction Studies, Kansai University

②木村自、『中国国境地域の移動と交流——近現代中国の南と北』(2010)、177-205、有志舎

③木村自、『ディアスポラから世界を読む』、
（2009）、220-257、明石書店

６．研究組織
(1)研究代表者
大阪大学大学院・人間科学研究科・助教
木村　自　(KIMURA MIZUKA)
研究者番号：１０３９０７１７